

計画小委員会 活動報告

計画小委員会
小委員長 松下 潤

1. 小委員会の目的

戦後の60年、急速な経済成長と人口流入を背景として大きな成長を遂げてきたわが国の地域・都市は、これから徐々にその変化の振れ幅を狭めつつ、成熟した地域形成へと向かうものと考えられる。国土交通省の社会資本整備審議会では、駅を中心とした「コンパクトな都市づくり」が提言されている状況にもある。これからの時代は、環境的、経済的、財政的な制約のもとで、また限られた空間の中で高密度な社会を営むべきわが国にとって、豊かで活力ある地域・都市を形成するためにも、地下空間の有効かつ計画的な活用はますます重要な課題であると考えられる。

計画小委員会は、こうした視点から、都市空間の再編や都市再生に結びつく地下空間利用の計画システムや事業システム、費用対便益・価値評価システム等の確立を目的として研究活動を行っているところである。

2. 研究内容

2.1 テーマ

- (1) 地下空間利用の計画・事業システムに関する研究
- (2) 地下空間利用の有用性評価に関する研究
- (3) 地下空間利用の法制度等に関する研究

2.2 基本方針

テーマ(1)は、前期までの研究成果を踏まえ、トリガー効果や低炭素社会形成の観点から、都市のエネルギーシステムを含めた地上・地下のエリアマネジメントの中で地下空間利用の有用性を捉え直すなど、今期はとくに『地上空間のための地下空間利用』という考え方を導入して、ボストン BigDig プロジェクト等の事例研究の掘り下げ、さらには外部の専門家による講演などの活動を通じ、地上・地下を含むエリアマネジメントの視点から地下空間利用の計画・事業システムの望ましいあり方について研究する。

テーマ(2)は、都市部の地上空間を今まで以上に有効利用する観点から地下空間の利活用を進める一つの方向として、低炭素社会形成への寄与やライフサイクルコストなどの要素を考慮しつつ、インフラ整備の影響・効果について「地上に造った場合」と「地下に造った場合」で差異を生じる項目を抽出し、地下空間利用のメリット・デメリットに関する整理を行い、各項目の貨幣価値換算法を含めて検討・提案する。

テーマ(3)は、多岐にわたる関係者によって地下空間の利用に係わる法制度や用語の定義がそれぞれに異なることなどを踏まえ、計画から供用後までの諸段階における関係者の役割や法制度等について体系的な整理を行う。さらに、総合的な観点から課題を抽出し、課

題解決に向けた提言をとりまとめる。

なお、今期の計画小委員会においては、テーマ(1)を小委員会全体での活動の柱と位置づけ、テーマ(1)の研究を進める上でとくに大きな課題となるテーマ(2)(3)をワーキンググループ化して活動する。

2.3 研究スケジュール（3か年）

活動内容／年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
1)情報・資料の収集整理	←→		
2)事例の調査・研究		←→	
3)課題の抽出，具体的分析研究		←→	→
4)成果とりまとめ			←→

3. 活動経過（平成 21 年 1 月～）

◇4月 21 日 第 5 期第 3 回小委員会

・今年度の研究活動の進め方について

◇9月 29 日 第 5 期第 4 回小委員会

・WGの進捗確認と今後の進め方および外部講師の招聘の具体案検討

◇12月 1 日 第 5 期第 5 回小委員会

・都市地下空間活用研究会（財都市みらい推進機構）メンバーとのディスカッション

◇その他

・各WGにおいて、事例研究及び地下空間シンポジウム投稿論文の作成協力

4. 委員名簿

役職	氏名	勤務先名称
委員長	松下 潤	芝浦工業大学
委員	浅野 光行	早稲田大学
委員	染次 治仁	東京都
委員	大熊 久夫	(財)計量計画研究所
委員	岸井 隆幸	日本大学
委員	清木 隆文	宇都宮大学
委員	工藤 康博	(株)三菱地所設計
委員	古賀 大陸	日本技術開発(株)
委員	西 淳二	(株)ユニオン・エンジニアリング
委員	横塚 雅実	鹿島建設(株)
委員	西川 和良	三井住友建設(株)
幹事	村田 哲哉	(株)ドーコン

(2009年7月現在)